

にこにこ きらきら ゆめにむかって



おともがわ

学校報 No.40

保護者版

平成 30 年 11 月 27 日

みんなで育む豊かな心・健やかな体・確かな学力

「素直に聞く力」を育てる

26 日から放課後の時間を活用して 4・5・6 年生の SPUT「スーパーパワーアップタイム」（※スパット）が始まりました。

全員の職員が三つの学年のいずれかについて、子どもたちが今までの学習の定着度を確かめたり、苦手な問題に挑戦したりすることの手助けをしています。この S P U T で、子どもたちがこれまでの学習をすばつと分かるようになってほしいと思っています。

（※「エスプット」と言っている職員もいますが、「スパット」の方が何となく意味も含んでいるようで私が勝手にそう言っています）

子どもたちが苦手な問題といえば「意味や自分の考えを、示された条件に合わせて書く」ことです。間違いの原因は、その殆どが与えられた条件の取り落としです。これは、相手が出した条件を一つ一つ踏まえていない、ということです。言い換えれば、どこか「独りよがり」で考えているということです。これは、相手の話をちゃんと聞かず、途中から自分の枠組みで人の話を聞いてしまい、その結果、相手の求める条件を落としてしまうということと同じ状態です。問題を読むときに、読みながら自分の中にある枠組み（思い込み）で読んでしまい、問題の条件を読み落としてしまっているのだと考えられます。つまり、いわゆる「注意不足」というのは、実は自分の中にある枠組み（思い込み）で人の話を聞いたり、問題を読んだりしていることに原因があります。

それを直すためにはどうすればいいのでしょうか。私は、人の話を「しっかりと聞く力」、特に「素直に聞く力」が必要だと思います。自分の枠組みを一旦置いておいて「素直に聞く」。その上で、自分がどう考えるかに進むことが大切だと思います。「素直に聞く」ことは「素直に相手の言うことに従う（批判しない、評価しない）」とは全く違います。人の話を素直に聞いた上で自分の考えを堂々と表現するのです。わがままでは学力が伸びず、素直であれば学力が伸びるといわれる所以です。

この「素直に聞く力」を育てるためには、読み聞かせ、教師の範読、追い読み（教師が先に少し読み、児童が後から追いかけて読む）、早読み（できる限りのスピードで音読する）等が有効だそうです。これらに共通していることは全て耳から文章を聞くことで、考える暇を与えないことです。黙読は、どうしても「独りよがり」を起こしやすいのです。耳から聞くことに集中することで「素直に聞く力」が自然と育つと言われていています。

「3年生 そば打ち体験」 ABSで今日放送！

11月13日に、余目いきいき会議協議会のみなさんのご協力を得て3年生が「そば打ち体験」をしましたが、その様子をABSで取材しに来ていました。香坂アナウンサーも来ており、子どもたちは（男子職員も）かなり興奮していたようです。そば打ち体験や、子どもたちへのインタビューの様子が放送されます。

11月27日（火）午後6時15分 「NEWS EVERY」ABSニュース
ご家族でご覧ください！